

ほいく・あーと・ふえすた

造形作品展&こどものためのアートワークショップ

学科・専攻：
関西女子短期大学
保育学科

担当教員：
保育学科全教員



連携先：
関西女子短期大学
保育学科



プログラム内容

保育学科では、学生が子どものことを学ぶための仕掛けとして、子どもとふれ合う機会を創っています。その仕掛けの1つ“ほいく・あーと・ふえすた”では、授業で制作した作品展示の会場に、子どもたちがアートを楽しむコーナーを設けます。学生主体で、企画、材料等の事前準備、当日の受付や誘導等の係り、ワークショップでの子どもたちへの指導・援助やお話会等を行います。学生たちは、授業で習得した知識や技能を活かして、附属幼稚園の園児さんや地域の様々な年齢の子どもと関わり、実感をもって子どもへの理解を深めていきます。

成果・考察

11月25日(土)の午後から、1年生55名と保育学科教職員で、子どもたちやそのご家族をお迎えしました。会場には、53組94名の子どもたちがやってきて、作ったり、描いたり、お話を聞いたり、作品を見たり、の楽しい時間を過ごしました。学生にとっては、授業で学んだことを、実際の子どもたちを相手に実践できる良い機会となりました。また、実習では対応することが少ない保護者の方と話す機会になり、子どもを大切に想う親御さんの姿にもふれることができました。

今後、学生が学ぶ機会でもある“ほいく・あーと・ふえすた”を継続させて、附属幼稚園や地域の子どもたちがアートを楽しむことにつながる活動になればよいと考えています。



学生たちの作品



会場には、子どもたちや学生の笑顔があふれていました。



関西女子短期大学
保育学科
宇津木 七実 教授

“ほいく・あーと・ふえすた”は、保育を目指す学生たちが、アートを介して子どものことを学ばせてもらう場でもあります。どんな絵を描くのか？のりやはさみを使う時にどんなことに困るのか？どんな言葉かけをすると喜ぶか？等々、子どもたちが見せてくれる姿から、多くのことを学ぶことができます。

また開催するにあたり、ゼミ活動として仲間と協力して企画準備を行うことで、学生の主体性やコミュニケーション力を養うことができます。

子どもたちの笑顔や、保護者の方からの「ありがとう」の言葉が、保育者のたまごの学生たちを励ましてくれます。保育学科一同、この活動ができることに感謝しています。



関西女子短期大学
保育学科 2年生
杉村 光愛 (2023、1月現在)

私は、“ほいく・あーと・ふえすた”でプレーメンの音楽隊という紙芝居を発表しました。初めて子どもたちの前で発表する機会となり不安と緊張で胸がいっぱいでしたが、いざ始まると子どもたちのキラキラした目に勇気づけられ気付けば私自身も楽しんでいました。

それまでは、人前に立つことが苦手でしたが、このようないろいろな機会を頂き、経験を重ねることで、「挑戦したい！」という気持ちに変わり、今は読み聞かせボランティアや学校行事など積極的に参加して、短大生活を楽しんでいます！！